

# 令和元年度 福島小学校学校評価結果の報告

## 1 これまでの経過

① 6月6日 学校長の経営方針をもとにした重点目標の達成、努力事項に対する具体的取り組み事項の検討 (校内研修)

- \* 昨年度の学校評価の結果を考慮し、七つの重点事項及び努力事項達成のための具体的取り組み事項について各学年で検討。
- \* 具体的取組事項別紙参照 (前期分)

② 10月24日 中間の自己評価と具体的取り組み事項の見直し(校内研修)

- \* 10月上旬に自分たちの取り組みについて各自、中間自己評価を行い、集計結果をもとに具体的取り組み事項の見直し(10/24)を実施した。(学年別)
- 内容
- (1)集計結果の感想や意見交換
- (2)継続して取り組んでいく事項
- (3)見直しをしなければならない事項の確認と精選・改訂

具体的取組事項		1学期	2学期	3学期	4学期	5学期	6学期
よみ聞かせる授業の工夫	児童の学ぶ意欲を高めるようなあてま指導をし、授業の最後にはまとめの振り返りを行う。	0%	13%	32%	17%	12%	27%
	指導、質問を工夫する。	3%	17%	47%	13%	10%	10%
	体系的、作業的な活動を取り入れる。	0%	30%	43%	43%	10%	10%
読む・書く・話す等の言語活動の充実	学習に合わせた書く活動(総合的調査や学習後の感想、学習のふりかき、日記、作文など)を取り入れる。	0%	7%	46%	28%	7%	12%
	積極的に読書指導を行い、読解力の向上を図る。	0%	41%	32%	28%	41%	38%
	話し合い活動の場を多く設定する。	4%	25%	32%	38%	26%	31%
ICTを学習した効果的な活用	ペア学習やグループ学習を効果的に取り入れる。	4%	21%	43%	32%	30%	33%
	教師や友達の話を通じて最後まで聞く態度を育てる。	0%	3%	38%	37%	2%	17%
	ICT機器を積極的に活用し、話し合い活動の場を設ける。	0%	23%	43%	33%	23%	37%
家庭学習の習慣化	体系的に理解しやすい教材を用いる。	0%	30%	53%	37%	10%	10%
	画像や動画を効果的に活用する。	3%	20%	37%	40%	23%	37%
	図書館を利用し、家庭での読書をすすめる。	4%	25%	38%	38%	23%	31%
家庭で学習したもののなかで、よかったことや工夫が見られるものなどを紹介し、共有する。	家庭学習の振り返り等を作成し、様々な家庭学習の工夫を共有する。	7%	33%	37%	27%	41%	34%
	家庭で学習したもののなかで、よかったことや工夫が見られるものなどを紹介し、共有する。	13%	33%	50%	17%	38%	42%

③ 11月中旬 アンケート内容の検討 (学年別)

- \* 年度末自己評価をおこなう際の参考となる児童・保護者アンケートについて、学年別各グループで内容検討。

- ④ 12月上旬 保護者・児童アンケート実施
- ⑤ 1月中旬 アンケート集計・分析(学年別)
- ⑥ 1月下旬 年度末自己評価の実施
- ⑦ 2月中旬 来年度の課題と改善策の検討(学年別)
- ⑧ 2月27日 学校関係者評価実施(評議員会)
- ⑨ 3月5日 学校評価について報告(校内研修)

11月 児童アンケート(学年別実施)		12月 保護者アンケート(学年別実施)	
学年	内容	学年	内容
1	1. 授業の進め方について、先生の話が聞きやすいようにしてほしい。	1	1. 先生の話が聞きやすいようにしてほしい。
2	2. 授業の進め方について、先生の話が聞きやすいようにしてほしい。	2	2. 先生の話が聞きやすいようにしてほしい。
3	3. 授業の進め方について、先生の話が聞きやすいようにしてほしい。	3	3. 先生の話が聞きやすいようにしてほしい。
4	4. 授業の進め方について、先生の話が聞きやすいようにしてほしい。	4	4. 先生の話が聞きやすいようにしてほしい。
5	5. 授業の進め方について、先生の話が聞きやすいようにしてほしい。	5	5. 先生の話が聞きやすいようにしてほしい。
6	6. 授業の進め方について、先生の話が聞きやすいようにしてほしい。	6	6. 先生の話が聞きやすいようにしてほしい。
7	7. 授業の進め方について、先生の話が聞きやすいようにしてほしい。	7	7. 先生の話が聞きやすいようにしてほしい。
8	8. 授業の進め方について、先生の話が聞きやすいようにしてほしい。	8	8. 先生の話が聞きやすいようにしてほしい。
9	9. 授業の進め方について、先生の話が聞きやすいようにしてほしい。	9	9. 先生の話が聞きやすいようにしてほしい。
10	10. 授業の進め方について、先生の話が聞きやすいようにしてほしい。	10	10. 先生の話が聞きやすいようにしてほしい。
11	11. 授業の進め方について、先生の話が聞きやすいようにしてほしい。	11	11. 先生の話が聞きやすいようにしてほしい。
12	12. 授業の進め方について、先生の話が聞きやすいようにしてほしい。	12	12. 先生の話が聞きやすいようにしてほしい。

## 2 学校経営基本方針

### (1) 学校教育目標

「就将」の精神を基盤として、

確かな学力を身に付け、心豊かでたくましく生きる子どもの育成

### (2) 重点目標

- ① 確かな学力を身に付けた子ども
- ② 心豊かな子ども
- ③ 心身ともにすこやかな子ども
- ④ 一人一人に応じた指導
- ⑤ 安心・安全な学校づくり

⑥保護者・地域等と協力・連携した学校づくり

⑦効率的で働きやすい職場づくり

### 3 児童・保護者アンケート

全学年の児童，保護者にアンケートを実施した。アンケートについては昨年度，一昨年度との経年比較も出来るようにした。

#### (1) 児童アンケート集計結果 \* 別紙参照

それぞれの質問項目について，よく出来ている・大体出来ている・あまり出来ていない・出来ていないの4段階でアンケートを実施した。また，(よく出来ている・大体出来ている)を肯定的評価(プラス)とし，(あまり出来ていない・出来ていない)を否定的評価(マイナス)とした。

#### (2) 保護者アンケート集計結果 \* 別紙参照

それぞれの質問項目について，そう思う・大体そう思う・あまりそう思わない・そう思わないの4段階でアンケートを実施した。また，(そう思う・大体そう思う)を肯定的評価(プラス)とし，(あまりそう思わない・そう思わない)を否定的評価(マイナス)とした。

#### (3) アンケート結果(児童・保護者)からの考察

## 特徴

～児童アンケートより～

- ・例年同様，授業はよく分かっている児童が多い。
- ・学校生活を楽しみ過ごしている児童が多く，困っている友達を助けるなどやさしく思いやりのある言動もよく見られるようになってきた。
- ・休み時間に積極的に外で遊ぶ児童が多くなってきており，運営委員会や体育委員会の企画した遊びや運動(週間)にも意欲的に参加するなど多くの児童が運動に好意的に関わっている。
- ・交通ルールを守ったり，給食の先生方への気持ちをこめてあいさつしたりすることはよくできている。
- ・コンピューターやTVを使った学習はとてもわかりやすい，また，地域の人との学習や地域に出での学習，外国語活動は，役に立っている，あるいは将来役に立つと感じている児童が今年も多いことがわかる。
- ・学校では，読書をしている児童も多い。
- ・掃除の仕方についても，「静かに掃除をしている」児童の割合が昨年度よりも増加した。
- ・何か困ったときに，先生に相談できる児童の割合も増えており，先生との信頼関係も築けている児童が多いと考える。

～保護者アンケートより～

- ・昨年と同様，8割以上の保護者が「学校の授業がよく分かっている」と感じている。
- ・「交通安全に気をつけ，安全な生活ができている」や「遊びのルールやマナーを守って友達と仲良く遊ぶ」，「命の大切さや人権を尊重しようとする意識が育っている」と感じている保護者の割合は多い。
- ・「毎朝きまった時間に起きる」や「毎朝ごはんを食べる」などはよくできている。
- ・地域の施設や人材を生かした学習は役に立っていると感じている保護者の割合も多い。
- ・警報発令時など適切な連絡体制の整備，安全指導や防災についての指導に対してのプラス評価も高く，学校運営への理解を示して下さっている。
- ・児童アンケート同様，「困ったときや問題が起こったとき，学校に相談ができる」と答えた保護者の割合も増えており，学校に対する信頼も高くなっていると考える。

## 課題

<表現力>

- ・3年間を比較すると，できていない項目とできている項目が同じである。特に「学校で自分の考えを進んで言う」が低い。
- ・ペア学習やグループ学習を通して自分の考えを言える場の設定をより多く設ける必要がある。
- ・授業のみならず学校生活のあらゆる場面でお互いの考え出し合う場を取り入れるなど工夫した手立てが必要である。

<落ち着いた生活・規範意識>

- ・「給食の先生へのあいさつ」のプラス評価は，わずかに増えてはいるが，保護者アンケートを見

ると、「場に応じた言葉遣い」や「立哨の方や近所の方へのあいさつ」はまだまだ課題が残っていると云える。今年度は、運営委員を中心に学校全体で月の生活目標をもとに、様々な取り組みがなされた。「あいさつ運動」や「掃除見回り隊」などにより、少しずつではあるがよくなってきている。これからも教師主導ではなく、児童主体の取り組みを中心に根気強く指導していきたい。

・学校生活では落ち着いた生活を送ることや規範意識に少し課題がみられる。

「落ち着いて学習」「トイレのスリッパ」

「廊下や階段を走らず、右側を歩く」

・学校生活を安全に過ごすための規範意識がまだまだ弱いところがある。全職員で共通理解のもと指導を徹底していく必要がある。また、これらも生活目標と連動させ、代表委員会の話し合いをもとに、児童主体の取り組みを考えていくのが効果的ではないかと考える。

・前年度、前々年度に比べプラス評価が増えている項目（規範意識）でも、廊下を土足で歩く・くつのかかとを踏む・帰りのあいさつと同時に教室を駆け出し、大きな音を立てて階段を下りる・言葉遣い等が気になる。手立てとして、年度初めに指導を徹底する・学校全体で授業の終わりや帰りの挨拶前に一言、「廊下は歩きましょう」と声をかけるなどが考えられる。また、今年度のように、全校朝会等でめあてがどのくらい達成できたか数値化できるものは数値化して達成度の「見える化」をし、できたことをほめて児童のやる気を持続させることも大切である。

<家庭での読書>

・読書について、学校ではだいぶできてきているが、家での読書はプラス評価は、50パーセントには達していない。

・社会環境が変化していくなかで放課後に家で読書の時間をとる習慣づくりはなかなか難しい。その分、学校で朝の活動などで、読み聞かせ等読書活動に親しむ時間をつくっているため、児童が家でも本をもっと読みたいと思うような手立てをさらに考えていく必要がある。

<防災>

・「防災についてお話する」が昨年に比べプラス評価が下がっている。、参観授業で防災についての授業や避難訓練をするなど防災について家庭で話し合えるような手立てを学校や学級でもっとしていく啓発活動が必要である。

・学校で行われた避難訓練等、機会あるごとにHPや学年通信などで発信していきたい。

<手伝い>

・「進んでお手伝いをする」が低いのも気になる。家族のためにみんなのために進んでお手伝いのできる児童に育てたい。

<その他>

・宿題がきちんとできている児童の割合もわずかに低くなっている。家庭学習についてはきっちり取り組んでいる児童がいる一方で、ながら学習になっていたり、宿題を次の日の登校後に行ったりするなど取り組み方に課題がみられる。

・あいさつ、早寝早起きといった基本的な生活習慣にもやや問題がある。特に夜寝る時間についてプラス評価が60%とやや低いが、家庭の事情もあり難しい問題である。引き続き生活の改善について呼びかけていきたい。

・保護者は学校教育に対して関心が高く信頼も厚いことがわかる。引き続き、児童にもよりわかる授業、そして楽しい授業になるよう努めていく必要がある。

## 4 自己評価

### (1) 自己評価結果

教員には、学校の重点目標に照らし合わせ、実践課題を設定しいくつかの具体的取り組み事項を検討しその取り組みについて自己評価を行った。

\* 年度末自己評価結果別紙参照

### (2) 教員による自己評価結果からの考察と来年度に向けての改善策について

#### ①「確かな学力を身につけた子ども」について

・児童の学ぶ意欲を高めるようめあてを提示し、授業の最後にはまとめ・ふり返りを行い、児童の主体的に学ぶ意欲を高めることができた。

・分かる授業の充実を図るための教師の教材研究により、自力解決をし、分かる喜びを児童が実感している。

・児童の実態に合った課題や教材を工夫し、体験的・作業的な学習を積極的に取り入れ、児童の学ぶ意欲を大事にすることができた。

・今年度から情報教育の研究校となり、ICTの効果的な活用方法について研修をすすめることが

できた。さらに、ICT機器の話し合い活動の場での活用方法や画像・動画の提示の仕方については、さらに研究を深める必要がある。

・朝の活動等で週に2回読書活動を行ってはいるが、家庭での読書の推進や読解力の向上まで至っていない。

・教師や友達の話聞く態度を育てる指導はできているが、まだまだ教師主導の授業が多く、ペア学習やグループ学習といった話し合い活動の場を設けることが少なかった。

・各学年にあった「家庭学習の手引き」を作成し、家庭学習への啓発を行ったが、それを指導に十分生かすことができなかつた。

<改善の方向性>

- ICTを活用した効果的な指導方法
- 継続的な読書指導と家庭での読書の推進
- 「家庭学習の手引き」の再検討

## ②「心豊かな子ども」について

・朝の歌を全校で流すことで、自然に声をあわせて歌うことができていた。

・きまりの意義について全校朝会で示し、具体的な手立てを代表委員会で児童が話し合い、実施する児童主体の指導で、大きな成果を上げている。しかし、「廊下や階段の通り方」や「チャイムを守って生活する」などできていないことも多いので、引き続き指導が必要である。

・全校に落ち葉拾い等呼びかけ実施することができた。また、あいさつ運動も運営委員会を中心に行った。教師主導ではなく、児童主体で実践できたことは大きな成果である。

・児童集会等で、様々な児童の活躍の場を増やすことができた。

・体験的な人権学習を十分に取り入れることができなかつた。来年度は、新指導要領の全面実施の年でもあるので、年間計画を見直し、体験的な学習を取り入れた計画の検討が必要である。

<改善の方向性>

- 人権教育の年間計画の見直しと検討
- 規律や規範意識高揚へのさらなる指導の手立て

## ③「心身ともにすこやかな子ども」について

・体育委員会や運営委員会の様々な企画を中心に、楽しんで運動に取り組める機会を多くつくったり、外遊びの奨励をしたりすることができており、休み時間に外遊びをする児童が多く見られた。

・体育設備については、PTAの協力を得て、水泳補助器具や砂場の整備、また学校備品の平均台やマット等の購入など環境整備が進んだ。

・「早寝・早起き・朝ご飯」や、授業や食事のときの正しい姿勢、食事のマナーなど全教職員が指導に力を入れ、給食のときのあいさつなど成果を上げている。

・食育の日（たべりんピックなど）を中心とした給食を残さず食べるはたらきかけや栄養職員を招いての食育指導により児童の意識も変わりつつあるが、児童アンケートでは、「好き嫌いなく食べている」児童の割合は少なくなっており、指導は十分とは言えない。

<改善の方向性>

- 外遊びや体育の授業をより行いやすくするためのさらなる環境整備
- 食育指導の継続

## ④「一人一人に応じた指導」について

・巡回相談員や学習支援ボランティア等の活用や支援の必要な子どもについてのケース会議や生徒指導連絡協議会等での全教職員への共通理解は十分に行っていた。

・特別支援コーディネーターを中心に、気軽に報告や相談ができるなど校内での報告・連絡・相談の体制も整っていると見える。

・個別の課題や目標を示し、具体的な手立てを立てることや場合によっては保健室やリソースルームを利用するなど個別の支援も行っていた。

・児童のよかった行動をほめるなど一人一人に応じたポジティブな行動支援を行うことができているが、生活目標と連動した支援は十分とは言えない。

<改善の方向性>

- 月目標と連動したPBSの充実

⑤「安心・安全な学校づくり」について

- ・どの項目においてもほぼよくできていた。
- ・避難訓練についても、授業時間だけでなく、清掃時間に行うことができた。
- ・防災についても、朝の会等で取り上げるなど意識の高揚を図ることができたが、家庭への啓発がまだ不十分である。オープンスクールや参観日に防災についての授業や講演会を行うなど方策が必要ではないか。
- ・アレルギーや持病がある児童への支援体制も整い、全教職員への共通理解も行えた。
- ・怪我をしたり不調を訴えたりした児童の保護者への連絡も迅速に行えた。

<改善の方向性>

- 防災についての家庭への啓発活動への方策

⑥「保護者・地域等と協力・連携した学校づくり」について

- ・チーム福島としての協働の体制がしっかりととれており、教職員のまとまりがある。
- ・保護者や地域の方々をゲストティーチャーとしてお招きし、総合的な学習の時間等も行われ、成果を上げている。
- ・HPについては、今年度は夏休みのプール開放時の熱中症指数上昇による中止連絡に利用を行った。しかし、保護者アンケートからは、HPの更新が遅いという指摘が何件か寄せられた。それだけ、HPへの保護者の関心も高いので、さらに充実を図る必要があるのではないか。
- ・地域行事への参加啓発も自己評価は85%と高いが、保護者アンケートでは昨年度よりも低くなっており、工夫が必要である。

<改善の方向性>

- HPの更なる充実（内容と更新回数の検討）
- 地域行事への参加啓発の工夫

⑦「効率的で働きやすい職場づくり」について

- ・グループウェア（ミライム）を使い、情報共有の効率化がなされている。
- ・今年度から、メンター制度が導入されたが、若手教員を中心にそれぞれの個性や得意なことを生かした研修がなされ、十分に機能したと言える。
- ・働き方改革をふまえ、業務の見直しや取り組みの精選も行われ、超過勤務時間の改善にも取り組んだ。しかし、休日出勤や月の超過勤務が30時間を超す事例が全くないわけではないので、更なる改善が望まれる。

<改善の方向性>

- 業務内容の改善と超過勤務時間の削減

5 学校関係者評価と改善方針

これらの結果及び改善の方向性をもとに、学校評議員の方々からご意見をいただき改善方針等の検討をした。来年度、上記改善の方向性ととも、次の方針をもとに学校改善に努めていき、知・徳・体の調和のとれた子どもの育成をめざしていきたい。

改善方針

- ・学校へ行くのが楽しいと感じている子どもがとても多く、学校は、授業時間休み時間問わず活気にあふれている。一方で自分の考えを進んで言えない子どももいる。新指導要領の全面実施をふまえ、主体的で対話的で深い学びの実現に向けた授業改善をめざしつつ、児童が進んで自分の考えを発信できるよう、特に言語活動の充実等に取り組んでいく。
- ・読書習慣の形成では、朝の読書活動や読み聞かせを活用し、もっと読んでみたいと思えるような更なる手立てが必要である。また、保護者と共に家庭での読書活動にも取り組みたい。
- ・子どもたちは、やさしく思いやりがあり、命の大切さや人権を尊重しようとする意識は育っていると見えるが、さらに体験的に学ぶことのできる人権教育を進める。
- ・運営委員や体育委員を中心とした様々な企画により、外遊びをする子どもや体育学習を楽しみにしている子どもが多い。一方で夜寝る時間が遅く、睡眠不足気味の子どもや朝から眠そうな子どももいる。また、給食についても、あいさつ等マナーについてはよくなってきているが、

給食を好き嫌いなく食べている子どもは昨年よりも減っている。学校での指導だけでなく保護者との連携や啓発を今後も推進していくことで基本的な生活習慣の改善を図っていく。

- ・防災意識の高揚のためには、防災について取り上げる機会を増やしたり、子どもに興味をもたせるような教師の働きかけや環境整備等の手立て、また、児童と保護者が一緒になった避難訓練などの保護者への啓発や地域の自主防災組織との連携により、学校と家庭・地域が一体となった取り組みをめざしていく。

- ・学校教育活動の発信の場としてのホームページの内容の充実と更新、またホームページを使った地域行事への参加呼びかけ等検討を重ねていく。

(※児童・保護者の意識調査結果やそれらの考察を含めた詳しい学校評価についての報告は、学校ホームページに掲載する予定)